

# 会 議 録

## 1 会議名

令和元年度第6回牧区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ○報告事項

(1)民生委員・児童委員、主任児童委員の改選結果について（公開）

(2)令和元年度 灯の回廊「まき深山のともしび」の実施について（公開）

### ○協議事項

(1)令和2年度地域活動支援事業について（公開）

## 3 開催日時

令和元年12月24日（火）午後6時30分から午後8時00分まで

## 4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：丸山進（会長）、西山新平（副会長）、飯田秀治、五十嵐正則、折笠弘志、  
金井貞子、佐藤祐子、清水薫、渡辺喜一

・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、岩野次長、宮腰グループ長、丸山班長、横田  
主任（以下グループ長はG長と表記）

## 8 発言の内容（要旨）

### 【岩野次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

### 【丸山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【丸山会長】

- ・会議録の確認：清水委員に依頼。
- ・本日の報告事項(1)民生委員・児童委員、主任児童委員の改選結果について、事務局に説明を求める。

【宮腰G長】

- ・—資料1に基づき説明—

【丸山会長】

- ・意見を求めるが無く、(1)民生委員・児童委員、主任児童委員の改選結果についての報告を終了する。
- ・続いて、報告事項(2)令和元年度 灯の回廊「まき深山のともしび」の実施について、事務局に説明を求める。

【丸山班長】

- ・—資料2に基づき説明—

【丸山会長】

- ・意見等を求めるが無く、(2)令和元年度 灯の回廊「まき深山のともしび」の実施についての報告を終了する。
- ・続いて、本日の協議事項(1)令和2年度地域活動支援事業について、事務局に説明を求める。

【丸山班長】

- ・—資料3～資料4に基づき説明—

【丸山会長】

- ・今ほど、事務局より令和2年度地域活動支援事業の概要（案）及び牧区の採択方針について説明があった。本日は、審査方法等について協議を行うが、始めに採択方針について協議を行う。個人的には採択方針を毎年度変更することは好ましくないと考えており、今年度と同様の内容で支障はないと思うが、各委員において項目の追加や削

除の必要性等について、意見があればお願いします。

【飯田委員】

- ・採択方針については、今年度と同様の内容でよいと思う。今年度は、多くの団体から事業提案が出されたため、牧区の予算を大幅に上回った。このため、傾斜配分等により補助額を減額して採択を行ったが、一つの団体から「予算不足のため、事業実施が困難である」との理由により辞退届が提出された。減額により事業縮小等を余儀なくされた団体の気持ちも理解できるが、改めて、提案団体には事業提案前に実施内容や予算の確保、減額された場合の対応等について、十分協議を行ってほしい。

【丸山会長】

- ・今ほどの意見については、提案を検討している団体等に説明する必要がある。今年度中に説明方法等について検討し、来年度へ繋げていきたいと思う。
- ・採択方針については、「今年度と同様の内容でよい」との意見があった。他に意見が無ければ、採択方針は前年度と同様の内容とすることに決定し、審査方法等の協議に移りたいと思うがどうか。

(一同、異議なし)

- ・それでは、審査方法等の協議について、事務局より説明をお願いします。

【丸山班長】

- ・—資料5に基づき説明—

【丸山会長】

- ・事務局より、今年度における審査方法及び審査期間の説明があった。現委員においては、過去4回の審査を行ってきた。時間を要するが、順番に各委員から改善点等についての意見を出してもらい、出された意見をまとめながら来年度の審査方法等を協議していきたいと思う。それでは、飯田委員からお願いします。

【飯田委員】

- ・先ほどの意見どおりである。

【丸山会長】

- ・続いて、五十嵐委員に意見をお願いします。

【五十嵐委員】

- ・審査項目と視点により採点を行っているが、非常に難しい。審査方法については、現

行のままで支障ないと思う。

【丸山会長】

- ・続いて、折笠委員に意見を願います。

【折笠委員】

- ・先ほどの意見にもあったが、採点は非常に難しい。また、過去に提案者としてヒアリングに参加したことがあるが、審査時に、「減額される場合があるが事業実施は可能か」との質問をされた。提案者側の意見になるかもしれないが、減額に伴う事業縮小や辞退の協議が無くなるような採択方法を検討できればと思う。

【丸山会長】

- ・続いて、金井委員に意見を願います。

【金井委員】

- ・現在の採点方法では、各採択団体に優劣を付けることができないように思える。例えば、採点の平均点が41点以上の場合、基準額は90パーセントとなり、多くの採択団体が補助希望額の90パーセント補助を得ることになる。採点及び傾斜配分方法の改善が必要だと思う。

【丸山会長】

- ・続いて、佐藤委員に意見を願います。

【佐藤委員】

- ・同じ団体が4年も5年も継続して提案していることについて、牧区に必要な事業と思う反面、新規提案団体等が減額により補助希望額を得られなかった際は、本当に自分達のやりたいことを実現できているのかと思う。できれば、何回か経験している団体は遠慮してもらい、新規提案団体等を優先して採択できる環境になればよいと思う。

【丸山会長】

- ・続いて、清水委員に意見を願います。

【清水委員】

- ・先ほどの意見にもあったが、同じ団体が何年も継続して提案していることについて検討が必要だと思う。特に、今年度は多くの団体から提案が出され、牧区の予算を大幅に上回った経緯がある。このように、予算を大幅に上回った場合は、継続して提案した団体は不採択にするといった方法も必要になると思う。

【丸山会長】

- ・続いて、渡辺委員に意見をお願いします。

【渡辺委員】

- ・継続事業について意見が出されているが、継続事業のすべてが悪いとは思わない。継続して事業を行うことで、牧区にとってよい結果をもたらす場合もある。継続事業等については、委員間で共通認識、意思統一を図るべきである。事業によっては、補助がないと実施できない事業もあり、これらをどのように判断するのが大事になる。

【丸山会長】

- ・続いて、西山副会長に意見をお願いします。

【西山副会長】

- ・今年度のように、採択団体への補助額が牧区の予算を大幅に上回った場合は、減額するしか方法がない。減額は大変な作業であり、大幅な減額は採択団体へ事業縮小などを余儀なくさせてしまう。一回目の審査を行う前に地域協議会で審査を行い、事前に提案事業を絞り込む方法ができたらよいと思う。

【丸山会長】

- ・各委員の意見をまとめると、継続事業に対する意見が複数あった。「状況によっては、継続しての提案や継続事業は遠慮してもらうべき」との意見が多い一方で、「継続して事業を行うことが、牧区によい結果をもたらす」との意見も出された。本協議会において一定の方針を定め、次回の地域協議会にて審査方法等を決定したいと思う。提案ではあるが継続しての提案や継続事業を採択・不採択とするのか審査する必要があるため、これまでは基本審査において委員の半数以上が適合と認めれば自動的に採択としていた方法を、継続しての提案や継続事業について審査が行えるよう、ヒアリング及び一次審査後に審査会を開催し、地域協議会で採択団体を決定する方法に変更してはどうか。今年度のように採択団体の補助希望額が牧区の予算を大幅に上回った場合は、継続しての提案や継続事業を中心に再審査し、不採択等の決定を行うことで、他の採択団体の補助希望額を大幅に減額することなく、予定していた事業を実施してもらうことができる。それでも、なお予算を上回っている場合は、傾斜配分を実施し、補助金額を決定する。大まかにまとめたが、意見等があればお願いします。

【山岸所長】

- ・採択団体を決定するため、ヒアリング及び一次審査後に審査会を開催し、継続しての提案や継続事業を中心に再審査を行い、二次審査へ進むということによいか。

【丸山会長】

- ・今年度は、牧区の予算を上回ったため、すべての採択団体を対象に大幅に減額を行った。この減額により、当初予定していた事業を実施するために必要な予算が確保できず、辞退届を提出した団体もある。このような事態が生じないよう、予め地域協議会で継続しての提案や継続事業を中心に再審査を行う審査会の開催を検討している。また、提案事業が地域活動支援事業の目的に合致しているかについては、受付時に事務局が確認しており、合致していると判断された団体がヒアリングに参加している。これを踏まえ、後ほど審査票の修正について事務局より説明がある。
- ・ここまでの協議において各委員より意見等があれば願います。

【横田主任】

- ・審査票の修正案について事務局より説明をさせてもらう。
- ・—資料6に基づき、説明—

【丸山会長】

- ・今ほどの事務局の説明のとおり、審査票を修正することによいか。  
(一同、異議なし)

【横田主任】

- ・ここまでの協議内容をまとめると、来年度の地域活動支援事業の審査方法は、始めに第1回審査票を使用してヒアリングを実施し、各提案事業が牧区の採択方針に合致しているかを○×形式で審査する。その後、委員の半数以上が適合とした各団体の補助希望額の合計を算出し、牧区の予算を上回った場合は審査会を開催し、継続しての提案や継続事業を中心に再審査を行ったうえで、採択団体を決定する流れとなる。課題としては、審査会において、どのような基準で採択、不採択を決定するかである。

【丸山会長】

- ・事務局から審査会における課題の説明があった。当然、毎回異なった基準で判断することはできないため、一定の審査基準を定める必要がある。例えば、継続しての提案や継続事業の期間は3年までとし、4年目以降は補助率50パーセント、または不採択とすることなどが考えられる。委員の半数以上が適合とした各団体の補助希望額の

合計が牧区の予算内であれば審査会を開催する必要は無い。

- ・審査基準等について、各委員より意見等があれば願います。

**【西山副会長】**

- ・何年も継続して事業を実施している団体が牧区にもいくつかある。先ほどの説明のとおり、継続して提案できる期間を定めて運用することに賛成である。

**【清水委員】**

- ・継続事業の中には、住民の参加率が非常に高い事業もある。安易に継続期間だけに重点を置くのは難しいと思う。事業内容を十分に精査し、一定の配慮が必要になるのではないか。

**【飯田委員】**

- ・地域活動支援事業があるからこそ、これを活用して実施できるイベントなどがある。このイベントが牧区に定着、または住民が楽しみにしているとすれば、やはり期間だけで不採択とすることは難しいと思う。

**【丸山会長】**

- ・各委員より意見が出されたが、審査会においても今ほどの内容のように協議が行えればと思う。長年の継続事業であっても、牧区に必要であるため採択すべきと判断されれば採択となる。

**【横田主任】**

- ・直近5か年の実績になるが、同一団体が提案し採択された事業で、かつ事業内容が前回同様、または関連している事業は14件である。目的は同一であるが単年ごとの事業内容が異なっているもの、事業概要は同一であるが前年度の問題点や反省点を改善し、工夫を加えて実施しているものなど内容は様々であり、一概に継続事業は全く同じ内容の繰り返しとはならない。これらの実績を参考に、継続事業等をどのように審査すべきか、協議をお願いします。

**【丸山会長】**

- ・今ほどの説明により、継続して提案し採択されている団体数や、提案団体に偏りが生じていることがわかる。引き続き、各委員から意見を願ひし、本協議会において、令和2年度地域活動支援事業の審査方法等について一定の方針を示したいと思う。

**【横田主任】**

- ・本協議会の内容を反映した案を作成し、次回の地域協議会で示す予定である。

【丸山会長】

- ・牧区では、毎年予算を上回るほどの事業提案がある一方、二次募集や三次募集を実施している自治区もある。また、継続して提案できる期間を3年間と定め、4年目以降は認めないとの基準を設けている自治区もあり、様々である。

【佐藤委員】

- ・地域活動支援事業費の各区への配分額は、均等割を7割、人口割を3割として決定している。人口が集中している区域は所要施設等が整備されるなど利便性が高いため、地域活動支援事業の必要性が低くなり、二次募集や三次募集まで実施しないと提案者が出てこないのではないかと思う。人口が多い地域に比例するのではなく、人口が少なく生活に不自由している地域にこそ金額を上げて配分してもらいたい。牧区は、上越ケーブルビジョンの受信ができず、コンビニエンスストアや鉄道、大きな病院もない地域であるため、若者の地元離れが進み人口が減少する一方である。このような環境であるからこそ、住民の方々が地域活動支援事業を活用して一生懸命まちづくりに取り組んでいるため、牧区は提案件数が他自治区より多いのだと思う。過去に出席した研修会において、「補助金は自治区ごとに配分しており、予算残額を他自治区に再配分することはできない」との説明を自治・地域振興課より受けているが、何とか改善してもらいたいと感じている。

【山岸所長】

- ・今ほどの意見は、均等割を上げて人口割を下げてもらいたいとの要望でよいか。

【西山副会長】

- ・佐藤委員の意見に賛成である。

【丸山会長】

- ・要望があった旨、事業主管課である自治・地域振興課へ伝えることでよいか。

【佐藤委員】

- ・それでよい。

【山岸所長】

- ・了解した。自治・地域振興課へ伝える。

【丸山会長】



- ・これまでの協議内容をまとめたうえで、次回の地域協議会で令和2年度地域活動支援事業に係る採択方針及び審査方法について、案を示したいと思う。採択方針については、若干の文言修正があるかもしれないが、基本的には今年度と同様の内容とする。また、審査方法については、ヒアリング及び一次審査終了後に審査会を開催し、状況に応じて継続しての提案や継続事業を中心に再審査を行う。予算の状況にもよるが、場合によっては新規提案事業を最優先とし、継続して提案している団体や継続事業を不採択にするべきかどうか等の協議を行う。

**【山岸所長】**

- ・審査会では、牧区の採択方針に基づき採択団体を決定することでよいか。また、審査会の開催時期はヒアリング及び一次審査後とし、その後、個別審査となる二次審査へ進む流れでよいか。

**【丸山会長】**

- ・そのとおりである。詳細な審査基準は、事務局を中心に検討してもらいたい。

**【横田主任】**

- ・詳細な基準を定めることは難しい。その時々状況により、地域協議会において採択団体を決定していくことになる。審査基準については、柔軟な対応ができる方法を検討し、次回の地域協議会で示したいと思う。

**【清水委員】**

- ・審査会の開催時期を、ヒアリング及び一次審査終了後に開催する予定としているが、二次審査後に開催してはどうか。各提案団体の採点を参考に協議することができる。

**【丸山会長】**

- ・二次審査後に審査会を開催する方法もある。

**【山岸所長】**

- ・二次審査の結果を見て、不採択等の検討をすることでよいか。

**【清水委員】**

- ・協議により、不採択等の決定を行う。

**【飯田委員】**

- ・ヒアリングだけで採択、不採択を決定するのは非常に難しい。採点結果等を基に協議したほうがよいと思う。

【丸山会長】

- ・二次審査後に審査会を開催することでよいか。  
(一同、異議なし)

【金井委員】

- ・第2回審査票についてだが、1点から4点の4段階で採点しているため、提案団体ごとに優劣がつきにくい状況だと思う。採点の幅を広げたほうが審査し易く、かつ傾斜配分に各委員の審査結果が反映されるのではないか。

【丸山会長】

- ・審査票の修正や審査基準を含めた全体的な審査方法等については、次回の地域協議会で案を示したいと思う。

【飯田委員】

- ・一次審査で採択することを決定しているため、二次審査の採点が低いことを理由に不採択とすることはできないのではないか。二次審査の採点結果で採択、不採択を決定するのであれば、一次審査は不要となる。

【山岸所長】

- ・提案書の受付時に事務局が審査しているのは、地域活動支援事業の目的に合致しているかであり、牧区の採択方針に合致しているかは審査していないため、地域協議会にて審査する必要がある。

【清水委員】

- ・先ほど、第2回審査票の修正について話があったが、4段階で採点しているため、やや劣っていると評価しても得点が2点となり、高得点となるのはおかしい。提案になるが、0点の項目を追加した5段階としてもらいたい。

【丸山班長】

- ・確認であるが、補助限度額は今年度同様の100万円によいか。

【丸山会長】

- ・昨年度と同様、100万円が良いと思うがどうか。  
(一同、異議なし)

【丸山班長】

- ・審査票の修正について協議したが、追加の修正案を説明させてもらう。

- ・—資料6～資料7に基づき、説明—

【丸山会長】

- ・今ほどの事務局の説明のとおり、審査票を修正することでよいか。  
(一同、異議なし)
- ・本日の協議事項である審査方法については、大まかであるが一定の方針を出すことができたため、ここで終了したいと思う。本日の協議内容を基にした、審査票の修正や審査基準を含めた全体的な審査方法等の作成について、事務局へ一任する。
- ・続いて、その他連絡事項について、事務局に説明を求める。

【丸山班長】

- ・「ウイズじょうえつ」の配布について説明。
- ・「第7回牧区地域協議会の開催」について説明。

【山岸所長】

- ・牧診療所の診療体制について説明。

【丸山会長】

- ・ほかに意見を求めるが無く、会議の閉会を宣言する。

## 9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : [maki-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:maki-ku@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。